

北海道自然保護協会

1979 - 風不死岳 (支笏湖) -

昭和54年12月

No. 33

協会活動状況

(特別の記載のないものは、すべて会場は事務所において)

●八月二十七日(月)

常任理事会

出席者 石川、宗像、狩野、高畑、長谷川。

議題と内容

1 日高山脈を守る連絡協議会

道自然保護団体連合の呼びかけにより当該協議会を設立して「道々静内、中札内線の開設」の反対運動を進めようとする気運があるが、本協会は団体連合の加盟団体でもありその趣旨の重要性からみても、当該協議会の設立世話人として、設立趣意書に名前を連ねることは当然であるとして意見の一致をみた。

2 第九回北海道自然保護シンポジウム

九月一、二日の両日にわたり、帯広市を中心として開催されるが、当協会より高畑参事が出席することに決定。

3 自然保護講座の開設

担当の高畑参事から構想の一端が示されたが、佐 浩三氏の「自然保護史」も取りあげることになった。

4 自然に親しむ会の開催

西岡水源地を中心に十月七、十、十四日のうちで開催することとし、鮫島、高畑阿参事が担当することに決定した。

●八月三十日(木)

第三回緑化工技術シンポジウム

日本緑化工研究会の主催で、積雪寒冷地帯における自然保護と緑化技術をテーマとして自治会館において開催されたので、当協会の会員にもひろく受講を呼びかけたところ、室蘭、苫小牧方面からの参加者も含めて多数の会員が参加した。

●九月十日(月)

常任理事会

出席者 石川、八木、新妻、狩野、長谷川、高畑、大森司。

議題と内容

1 知床半島の鳥獣保護について

本年五月より、道よりの受託事業として(自然生態系総合調査)知床の調査を担当している大森司紀之氏が出席、「本年九月十五日より休猟区が、知床については解除になるが、知床については引き続きつづいて休猟区とすることが望ましい地域であり、地元の斜里町および青い海と緑を守る会(斜里町)の二者が要望書を道自然環境保全審議会鳥獣保護部会などに提出されているが、当協会としても知床全区について要望すべきではなからうか、また、その重要性を現在の調査で痛感している」旨提案説明があり、討議の結果、道および環境庁あてに別記要望書を提出することにした。

2 日高山脈を守る連絡協議会

第九回道自然保護シンポジウムに出席した高畑参事より、九月二日から発足した当該協議会の規約、会計、割当てされたカンパ目標額三十万円などについて説明を聞き、カンパ金の目標額は多大にす

ぎるが、全会員に呼びかけをし、努力してみることになった(一口五〇〇円)。

3 坂本直行画伯の山岳カレンダー

前記シンポジウムの折に、団体連合の運営資金用としてのカレンダー五〇〇部(一部一、〇〇〇円)の割当をされたが、還付金の措置もなく、消化のための労苦のみ賦課されることであり、昨年度の一〇〇部でも大変であった経緯もあるが、全力をあげて努力してみることとした。

4 自然に親しむ会

西岡水源地を中心とし、十月十日(水・祝日)に開催することに決定し、報道関係にもひろく周知することとした。

5 その他

●九月十三日(木)

「知床半島の鳥獣保護に関する要望書」を道生活環境部自然保護課長に提出して意見の交換をした。石川会長、大森司、進藤が出席。

●十月八日(月)

常任理事会

出席者 八木、狩野、辻井、高畑、長谷川。

議題と内容

1 自然保護講座

別記内容で進めることとし、講師には謝礼を考慮するとともに、市外講師には当然旅費も加えることに決定した。

2 会誌

新スタイルでの発行は、目下のところ来年の五月になりそうなので、今年度事業として未発行は望ましくないという結

論になり、従来のスタイルのまま、三月発行を目標として進めることになった。

3 自然保護シリーズ

辻井理事より現状の説明があったが、会誌とともに、新しい進め方について北大図書刊行会の人も交えて、近く検討会を開くことにした。

4 坂本直行画伯の絵の購入

八木副会長が担当し、年内に購入することに決定した。

5 その他

●十月十日(水)

「秋の植物と野鳥に親しむ会」の開催快晴に恵まれ、四十五名の参加者で、予定どおり九時に市営バス停「西岡水源地」に集合し、植物、野鳥担当の先生方を紹介してからスタートした。この模様は、途中からバックしたNHKのカメラマンの手により、早速ヒルのTVニュースで報道された。

小川(北電)、伴野阿ご夫妻をはじめとし、女性グループのご一行(コクワ、山ブドウをみつけるのが得意で、一行を喜ばしてくれました)、蕨岳高校の生物部のグループ、東山小学校のグループもまじり、植物担当の鮫島、高畑、森田の三氏、野鳥担当の小川、島田阿氏をそれぞれ中心とし、和気あいあいに、楽しい一日となった。また、途中、口に入れることのできたコクワ、山ブドウなどの秋の味覚は、疲れを忘れさせる添えものとなった。

●十月十九日(金) 常任理事会

出席者 石川、八木、辻井、新妻、狩野、長谷川、前田(北大図書刊行会)。
議題と内容

1 自然保護シリーズ

刊行会案について前田氏より説明があり、それについて討議された。とくに協会が単に関与したという立場だけでなく、対外的には協会の事業としての姿が必要。また、協会としてはぜひやりたい事業である。企業として全面的に刊行会、ペーイスを進めたいとする刊行会と、連携いできる姿がないものかということが討議の中心であった。

その結果、刊行会の事業として全責任(市販するので売れ残りを生ずることも考慮)をもって進めるが、全部が全部刊行会ペーイスで進めることなく、協会の努力次第では両者が一致しうるときには協会編という形で、とりあげることも可能である。すなわち、協会案と刊行会案とが一致し、協会編としても企業的にペーイスと判断できたときには喜んでその線を進めることは可能であるということになった。企業性を考え、刊行会発行に進めるが、ときによっては協会編がありうるというところで意見の一致を見た。

また、刊行会ペーイスを進めても、発行部数が三、〇〇〇部確保できるならば、会員頒付は、原価程度にすることも可能ではなからうか、また、そうしたものであるという意見もでた。

2 会誌

市販することが前提であるが、売ることとを考えすぎて本来の会誌の意義を失う

ことは避けるべきで、本誌こそは協会発行でなければならぬという意見統一がされた。なお、市販するためには、形も替え、書名も場合によっては替える必要もでてくるだろう。特集も当然考えねばならない。十一月には、常任理事のほか、山口、鮫島、高畑各参与および前田(北大図書刊行会)氏をまじえて検討会を開くことにした。

3 その他

●十月二十七日(土)

会誌編集会議
出席者 辻井、山口、小川、進藤。

二月発行をメドに従来のままのスタイルで会誌第十九号を編集することとし、内容を検討した。「川」を主題とするので意見の一致をみ、川と先住民族とのふれあい、豊平川とサケ、魚道、石狩川と鳥、魚の立場からみた川、地図に現われた川、川と人間とのかかわり方、アマゾン・ガンジス河など、その構成内容、原稿担当者の検討などを重ね、それぞれ分担して原稿を依頼することにした。

●十一月五日(月)

「日高山脈を守る連絡協議会」の構成メンバーの一員として、関係諸団体と足並みを揃え、北海道土木部道路課および生活環境部自然保護課の関係者十人に対して、要望ならびに意見の交換を行ったが、当協会から石川会長が参加した。

●十一月八日(木)

「月寒、精進川の保健保全整備」について市議会に陳情していたが、市議会環境委員会のかたがたと、市側および協

会(進藤)、真駒内環境保全懇話会(市川、浜野)側とで現地視察を行った。

●十一月十日(土)

自然保護講座はじまる

第一学期の第一日目として、予定どおり道婦人文化会館で行われた。

●十一月十日(土)

来道中の英国アバディーン大学のギミンガム教授を囲んで懇談会をホテル・サンフラワーで行った。

出席者 石川俊夫、及川敏一、川村静子、狩野、広、紺谷友昭、斎藤雄一、佐々保雄、進藤、勉、島倉享次郎、島田明英、高畑、滋、田川、隆、高橋延清、高橋治子、俵、浩三、新妻、博。

●十一月十七日(土)

坂本直行画伯より、「春の大雪山」(油絵・二十一号)購入、法人化の記念品として事務所に飾ることとした。

●十一月三十日(金)

常任理事会

出席者 石川、八木、辻井、狩野、長谷川、高畑、鮫島。

議題と内容

1 会誌

懸案事項であった会誌の進め方について、高畑、鮫島阿参与も加え、検討したが、やはり、会誌は従来どおりの姿でアカデミックに進めるべきであるとし、市販の件は機会あるごとに十分検討しつづけることにした。

2 その他



陳情書、要望書

意見書、回答文書

知床半島の鳥獣保護に関する

要望書

H N C S 第二〇五号

昭和五十四年九月十三日

環境庁長官 上村千一郎 殿

北海道知事 堂垣内尚弘 殿

(社) 北海道自然保護協会

会長 石川俊夫

要旨
一、糠真布川(知西別川以北東(別添に示す区域)全域を昭和五十五年度を目標に鳥獣保護区に設定するよう要望いたします。

二、同区域を含め、知床半島一円の狩猟の適正化ならびに密猟防止のため、鳥獣保護員などの増強等、特段の措置を講ずるよう要望いたします。

理由

知床半島は、食物連鎖の頂上にある猛禽・ヒグマを含め、各種鳥獣がワンセットとして原生に近い形で残されているのが国最後の唯一の地域で、同地域の鳥獣保護の必要性、重要性は論を待たないところであります。

しかるに近年、森林伐採、それに伴う

河川の荒廃、サケ科魚類のそ上阻止、道路建設などによって生息環境が悪化し、同地域の鳥獣の数は著しく減少しました。とりわけこの半島の基部において、平地の林は牧草地化され、山林は伐採され、国道二四号線が横断したために、半島内の陸生動物は隣接地域と隔離されており、ひとたび狩猟や密猟により減少すると移入による回復が困難な状況にあります。

現在、かろうじて動物の豊かさが保たれているのは、地元の人達が鳥獣保護に力をつくしていること、およびこの地域の大半が知床休猟区および標津北部休猟区に含まれていることによります。しかし、両休猟区とも今年九月十五日に廃止されること予定されているため、知床における鳥獣の保護対策の緊急性は非常に高まっております。

とくに、国立公園を含む糠真布川(知西別川)以北東の地域は原始性が最も保存され、各種鳥獣の密度が高く、天然記念物であるオジロワシ・シマフクロウが繁殖しているところから早急な保護対策の確立が要請されます。

さらに休猟区域の廃止にともなって知

床半島において狩猟が開始された場合、船で乗りつけることのできる当地にあっては、他から来たハンターによってシカ・オジロワシ・シマフクロウなどに代表される鳥獣が、密猟によって壊滅的打撃を受けることが深く憂慮されます。

上記の理由より、知床半島の天然記念物指定鳥獣およびその他の鳥獣類を保護していくため、少なくとも糠真布川(知西別川)以北東の全域については、昭和五十五年を目標に鳥獣保護区に設定すること、および知床半島一円の狩猟の適正化ならびに密猟防止のための監視強化をあわせて要望いたします。

自然保護講座の実施

趣旨

北海道の自然は、道民のみならず人類共通の財産と考えるべき重要なものである。一方、自然の価値の見直しと適正な活用とは、今後ますます重要な問題になるものと考えねばなりません。

当協会は、自然保護の重要性をさらに一層認識して頂くべく、会員ならびに一般の方々を対象に当講座を実施するものであります。

場所 第一学期は道婦人会館

第二・三学期は日本生命ビル九F

日時 十一月十日(十一月十五日)

十一月十二日(二月十六日)

毎土曜日、午後二時(四時)

定員 各学期とも三十名。四回を通して

の受講を各学期とも原則とする。

受講料 各学期一、五〇〇円。ただし、

全学期を通しての受講は四、〇〇〇円とする。

・第一学期(自然保護を進めるために)

十一月十日(自然保護の歴史をたずねて) 俵 浩三氏・道立野幌森林公園事務所長。

十一月十七日(日本人の自然観と自然保護思想) 山本 正氏・前北海道自然保護団体連合代表・当協会参事。

十一月二十四日(林業と自然保護) 小 関隆順氏・北大農学部教授。

十二月一日(自然保護行政にのぞむ) 石川俊夫氏・北大名誉教授・静修短大教授・当協会会長。

・第二学期(世界の自然に学ぶ)

十二月八日(ヒマラヤとパタゴニア) 辻井達一氏・北大農学部助教授。当協会常任理事。

十二月十五日(北アメリカとオーストラリア) 八木健三氏・北大名誉教授。

北星学園大教授・当協会副会長。

一月十二日(シルクロード) 新妻 博氏・道野鳥愛護会副会長・道詩人協会会長・当協会常任理事。

一月十九日(ヨーロッパ) 井手貴夫氏

北大名誉教授・北星学園大教授。

・第三学期(道内の自然とその保護)

一月二十六日(道南の観光開発) 宗像 英雄氏・南北海道自然保護協会会長。

当協会副会長。

二月二日(苦東開発) 門脇松次郎氏。

苦小牧自然保護協会会長。

二月九日(釧路湿原) 上田五郎氏・釧

路自然保護協会会長。新庄久志・釧

路自然保護協会会長。

新庄久志・釧路

市立郷土博物館・当協会理事。

◇二月十六日(大雪と日高) 鮫島惇一郎氏・農林水産省林業試験場北海道支場育種研究室長、当協会参与。

●自然保護講座の受講希望者名
全学期希望者

赤石喜恵子、阿部洋子、泉 重雄、伊藤幸男、小野美和子、加藤哲男、熊沢弥太郎、狩野 広、小竹省二、佐々木ちづる、佐川俊一、佐山ひろ、杉本カヨ、杉野目康子、高崎秀己、高橋圭二、長谷川雄七、林 俊郎、林 隆良、三木 昇、美田花枝、八木鈺太郎、山本繁樹、山田キク子、岡田幹夫。(以上二五名)

◇第一期希望者
石本礼子

◇第一期希望者
後藤範泰

◇第一期希望者
橋本清司、古川あきら

◇第二期希望者
小山淑子、高田 繁、寺田康道、世渡美紀子、荻 千賀

◇第二期希望者
梅津玲子、小林秀樹、佐竹俊男、高橋治子、武田ひでき、村野紀雄、井上元則

◇第三期希望者
酒井健二、富川 徹、渡松章勝

●ギミンガム博士(英国、アドバイザー) 大学植物学教授) を囲む会

高畑 滋

学術振興会招へい教授として、北大環境科学科伊藤浩司教授のもとに三カ月間にわたって滞在しておられたギミンガム

教授を囲む会が、十一月十日にホテル・サンフラワーでひらかれ、十六名の参加があった。

ギミンガム教授は泥炭植生が専門で、滞在期間中に尾瀬、釧路、大雪山、サロベツなど湿原を中心に調査旅行をされた

が、自然保護問題についても活躍されている先生で、当協会の人達と話しあいたいというご要望もあって、大急ぎで離道前夜に実現したものである。まず、スライドでスコットランドの自然の特徴について解説をしていただき、さらに自然保護の考え方と体制についての説明があった。一定の生物学的特徴をもち、代替性が少ないとか、こわれやすさ、象徴的、歴史性、学術性、位置、大きさなどを考慮して自然保護地区が定められるが、工業開発や農業開発との調整は、幅広い階層の人からなる委員会で民主的に検討することのことであった。

会食しながらの懇談会では、会員からいろいろな発言があり、和気あいあいのうちに有意義な意見交流が行われた。

●会員の移動

(入会)

東 泰行、安藤 大、石川雅康、扇谷昌康、大河康隆、大泰司紀之、小嶋研二、後藤まさ、佐藤 高、佐山ひろ、沢沢雄二、田中久雄、武田秀樹、中本憲治、林俊郎、藤島保夫、電源開発局北海道支社(退会)

五十嵐和彦、石井トシ子、長内 力、国井忠一、古賀なみ子、後藤鉄太郎、佐々木周三、佐藤信男、高岡 潤、網島洵子

美津子、秦 勝、リヨ、浜川哲弥、宝金新太郎、前田 満

●日高山脈を守る運動にご協力をいただいたかたがた

石川俊夫、八木健三、高畑 滋、長谷川雄七、新妻 博、三浦久治、井後 武、東 泰行、森田 勇、平井剛夫、寺田周史、平野好政、橋本昌利、浦口真左、清流誠二、斎藤正雄、村山林治郎、新宮康生、菲沢千代、長谷川仁、野沢勝弘、五十嵐敏彦、橋本清司、前野正之、松本一和、新谷光通、水文地質研究所、唐牛公平、北村千寿子、匿名氏、田中留蔵、高橋充夫、吉田 勝、狩野 宏、坂本九郎陶 三男、沙川干潟を守る会、遠藤 薫、淡川舜平、浦富 進、小栗 宏、平田更一、山田 治、島本勝治、小野 決、望月達夫、林 和夫、楠野好孝、浅野勝彦、西島康三、村井延雄、松野誠也、以上五二件、七万四千三百九拾円(十一月二十二日現在)

●新刊紹介

「北海道・森と林」は、会員鮫島惇一郎さんをはじめとする林業試験場のスタッフのかたがたによってまとめられたもので、森林王国北海道を、アイヌ民族と森林からパイロットフォレストに至るまで、さまざまな視点から私達に教えてくれる。ことに森林を変化するものとしてダイナミックにとらえられている点が特長であろう。巻末には北海道の主要な樹四五種が図示されていて、ちょっとした図鑑としても使える(北海道新聞社、一、二〇〇円)。

「北日本産樹木図集」(森 邦彦著・原直子画)は、主として東北地方を中心とした図鑑だが、もちろん北海道でも十分使える。ことに、その画を担当された原さんは、日本画の素養のある方だそうで、近來これだけの植物画のある図鑑は珍しいといえるだろう。

著者は前山形大学農学部教授。自費出版なので直接、郵便振替口座名古屋五六八三九、森 邦彦宛申し込むこと(発行エビスマヤ書店、五、〇〇〇円)

「ソビエト連邦の樹木」は、やはり会員の中田 功・前田 満さんの著書で、サブタイトルにあるようにソビエト連邦の樹種、分布、用途がかなり詳しく記載されている。樹種は学名、和名にロシア語名が加えられているし、分布も、分布範囲だけでなく、谷沿いとか、石礫斜面というように生育地まで記されている。申し込みは振替小樽二三八八八、学術図書自主刊行会・松崎清一宛(連絡先・林試北海道支場・二、〇〇〇円)。

昭和五十四年十二月十五日発行

〇六〇札幌市中央区北一条西七丁目 広井ビル五階

発行所 社団法人北海道自然保護協会

電話(〇一一)二六一一六五八六(代)

(〇一一)二五一一五四六五(電)

郵便振替口座 小樽四〇〇五五

北海道拓殖銀行本店 〇七二五九

北海道銀行本店 〇一四四四

発行人 石 川 俊 夫

印刷 札幌印刷株式会社